

大会アピール

教職員のみなさん

私たちは、今日この府高教大会に集い、教育について語り合い、今を生きる高校生の成長していく姿や、教育に携わる者としての喜びを分かち合うことができました。同時に、多くの困難な課題も共有しました。平和と憲法の危機、貧困と格差、教育産業の介入と公教育の破壊、私たち教職員の手足をしばるような仕組みづくり、そして政治の墮落。これらはどれをとってみても、私たちが立ち向かうには大きく高い壁のように思えます。そのうえ、過密な労働が私たち一人ひとりをわけ隔てるもう一つの壁を生み出しています。いま世界中で、新自由主義的施策のもと、競争原理による学校つぶしや教職員の分断など、同じようなことが起こっています。私たちが日々直面していることは、世界の教職員や子どもたちが直面していることなのです。

一方でこの一年間、世界は確実に前に進んできました。昨年の今ごろは、ミサイルへの対処に関する通達在全国の学校へおろされる状況でした。しかし、朝鮮半島で戦争が現実的な危機となっていたなかで、この4月、南北に分断された国のそれぞれの代表が握手をし、半島の非核化をめざすことを宣言しました。そして世界では、ヒバクシャと市民が世論の力で核保有国を包囲し、人類史上初めて核兵器を禁止する条約がつくられました。批准した国は9ヵ国に達しており、この数は今後も確実に増えていくでしょう。核大国アメリカでは銃規制を求めて高校生たちが声をあげ、彼らのスローガン #March for Lives (命のための行進) がこの国の全土を埋め尽くしました。武力で他者を支配し、戦争で金儲けをする。これは私たちのめざす人間の姿ではありません。武力をもって「苦しく生きる」ことを誰が望むでしょうか。

日本国憲法は人類のめざす理念を高らかに謳います。「わたしたちは、心からもとめます。世界じゅうの国が、正義と秩序をもとにした、平和な関係になることを。そのため、日本のわたしたちは、戦争という国家の特別な権利を放棄します。国と国との争いを解決するために、武力で脅したり、それを使ったりしません。これからは、ずっと」*。この理念を実現していくのは教育の力です。だからこそ、それを阻もうとする者は、常に教育に介入し、支配しようとしています。

この大阪で、母校の廃校に対して声をあげ署名活動に取り組んだ卒業生たち。彼らは言います。「自分の母校さえ存続すればいい、という問題ではない。この問題は、大阪の高校全体の問題なんだ」。私たちが日々直面する課題、その一つひとつにとりくむことが、背景にある大きな矛盾を解決することにつながります。一人の力は小さくても、みんなで学び声を上げることが未来を切り拓き、壁を乗り越える原動力を作るのです。

すべての教職員のみなさん。

私たちは、「教え子を戦場に送らない」「一人ひとりにゆきとどいた教育を」「誰もが安心して働ける職場に」を合言葉に歩んできました。組合とは、仲間と学び、意見を自由に表明しあう場です。そのための力をつける場です。苦悩と喜びを分かち合い、励まし合う憩いの場です。同時に、不当なことを見過ごさず、教育の支配に対しては、道理と団結の力で立ち向かう組織です。いま必要なのは、私たちがつながることです。新しい仲間と手をつなぎ、希望をもって歩もうではありませんか！

2018年5月19日 府高教第89回定期大会

*「やさしいことばで日本国憲法」より抜粋